

補助事業番号 23-4-052

補助事業名 平成23年度（復興支援）被災地域の記録、調査活動 補助事業

補助事業者名 早稲田大学 都市・地域研究所

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

当面は近隣の二本松市等で、もともとの地域コミュニティをベースにした仮暮らしの場で復興を進める。その後、避難区域が順次解除されていく中で、現地での復興を並行して進めていく。この段階的なまちの復興プロセスをイメージできれば、町民にとって「ふるさとへの帰還」も生活再建の選択肢の1つとなる。町民の避難生活の状況と帰還に対する複雑な思いを聞き取り、これをもとに、地域のNPOや行政と協働で、ふるさとでの安定した生活と就業環境を実現するための土地利用や事業展開を含んだ「地域の復興イメージ」を検討するための基礎調査を行う。

(2) 実施内容

①近隣自治体である二本松市内に避難している浪江町民、②東京都内、及び首都圏に広域避難している浪江町民へのヒアリング調査

- ・復興シナリオや生活再建パターンの例示を踏まえた各自の再建シナリオについての要求や意向調査

- ・町会等の地域組織や「まちづくりNPO新町なみえ」のメンバー、行政職員など、復興まちづくりの担い手へのヒアリング調査

- ・上記のヒアリング結果を整理し、本格的に検討を進めていくことになる暫定的な復興まちづくりの検討に活用できるようにとりまとめた。

- ・100年後にも復興まちづくりのプロセスを残すために、インタビュー等を撮影し、映像による記録・編集を行なった。

1	2	3
		
第一回幹事会	第二回幹事会	二本松ワークショップ
4	5	6
		
南相馬ワークショップ	成果報告会	東雲ワークショップ

2. 予想される事業実施効果

今後は、本事業の成果をもとに、今後継続して避難町民が比較的集まっている二本松市で復興まちづくり検討ワークショップを開催し、きめ細かいニーズを踏まえて、復興に向けた課題を整理し、住民参加のもと、模型を使って将来のまちイメージをシミュレーションしながら、復興イメージを描き、復興まちづくりの計画や実践につなげていく。映像による記録・編集についても、引き続き継続的に実施する予定。

3. 本事業により作成した成果物等

本事業のヒアリング調査を元に、連続して行った復興まちづくり検討WSの成果は、本事業を協働で取組んだ浪江町と、まちづくりNPO新町なみえの支援を受けて報告書としてまとめました。

冊子データ（まちづくりNPO新町なみえHPに掲載）：

<http://www12.plala.or.jp/sinmachi-namie/mysite3/0822saisyuban.pdf>

4. 事業内容についての問合せ

団体名：早稲田大学 都市・地域研究所

住所：〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 513

代表者名：所長 佐藤 滋（サトウ シゲル）

担当者名：白木 里恵子（シラキ リエコ）

電話番号：03-3205-6893

URL：http://www.kikou.waseda.ac.jp/WSD322_open.php?KikoId=01&KenkyujoId=82&kbn=0